

【1.体制】

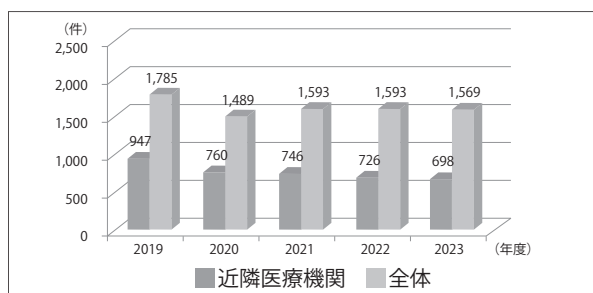
看護師3名、社会福祉士1名

【2.取組内容と実績】

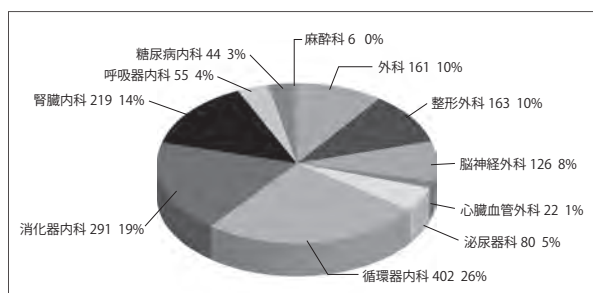
(1) 地域連携（紹介・逆紹介）

全体の紹介件数は1,569件、近隣医療機関（三角町、大矢野町、松島町・宇土市の一部）からの紹介は698件で、全体の紹介件数は前年度より減少した。特に近隣医療機関からの紹介が2019年度から20～30件ずつ減少傾向が続いている。2023年度、不整脈治療を専門とする循環器内科医師が加入したこともあり、循環器内科への紹介が増加し、治療が必要な場合は高次医療機関へ紹介する流れが更に加速した。逆に年度末での整形外科医の退職に伴い、他院への逆紹介が急増した。次年度は済生会熊本病院から非常勤での応援を頂く予定だが、患者さん、近隣医療機関・施設から整形外科についての問い合わせは多く、常勤医の確保が急務である。

紹介件数の推移・内訳



紹介科別内訳



(2) 連携活動

2023年度も宇城市、上天草市の在宅介護医療連携推進事業、在宅サポートセンター事業のメンバーとして参加させてもらっている。また、新型コロナウイルスも5類になったこともあり、オンラインでの面会が減少し、以前と同じように直接面会することが増加した。

また、中長期計画の一環で、近隣医療機関へ当院に対するアンケートを実施し、そのお願いで医療連携部長（医師）と一緒に訪問活動を行った。その際、開業医の先生方

から色々なお話や要望を伺うことがあり、医師の訪問の重要性を感じた活動であった。

(3) 退院支援

2023年度は退院支援加算Iを752件、入院時支援加算Iを46件算定した。2024年度の診療報酬改訂で算定点数の見直しがあるため、関係スタッフへの周知を再度行いながら、確実な取得を継続していきたい。

また、10月からの訪問看護ステーションの新規開設に伴い、地域連携室看護師2名が共に同時異動となった。メンバーの編成に伴い、各部署への連携が滞ることがないように各病棟配置の医療ソーシャルワーカー・退院支援看護師・外来看護師・リハビリスタッフと適宜連絡・相談を行いながら協働して入退院支援に取り組んだ。当院に訪問看護が新設されたことで、退院時に介入依頼を行いスムーズな退院支援へつながった事例や在宅での看取り希望の患者・家族に対し意向に添える関わりができた事例もあり、引き続き病棟や外来も含めて連携しながら在宅療養を支援していきたい。

その他、入退院支援委員会での取り組みで、病棟看護師の在宅への意識強化のために入院時の情報収集について、入院中の本人・家族への関わりについて、意思決定支援など5分レクチャーや動画配信での伝達を行った。今後は、実際現場でどう関わっていけばいいのか病棟看護師と共に考えながら一緒に退院支援を実践していく機会を増やし、退院支援の意識をもった看護師を1人でも増やしていけるような関わりを継続していきたい。

(4) 出前・健康講座

2023年度はコロナ禍前に戻りつつあり、開催は9件/年と昨年度より微増となった。また、小中学校から依頼を頂き2件実施することができた。来年度も可能な限り対応していきたい。

【3.今後の課題】

次年度は以前行っていた宇天医会（病診連携会議）の再開を予定しており、まずは院内外と相談しながら確実に実施していきたい。